

研修 評価

研修名	コミュニケーションに活かすコンフリクトマネジメント ～メディエーションの理論と技法～				
領域	ラダーと連動した継続 教育医療安全研修	会場	新潟県看護 研修センター	受講料	会 員：3,080 円 非会員：9,240 円
対 象	学習段階レベル（Ⅲ～Ⅳ） 募集数(80人) 応募数(53人) 参加数(52人) 会員数(52人) 非会員数(0人)				
日 時	令和6年10月10日（木曜日）10：00～16：00				
ねらい（目標）	1. 医療コンフリクトマネジメントの基礎理論を理解できる。 2. 医療メディエーションについて理解できる。 3. 医療紛争の構造が理解できる。				
講 師	荒神 裕之 山梨大学医学部附属病院 教授				
内容・方法	○講義内容 1. 医療メディエーションとは？ 2. コンフリクトの2つの方向性 3. 事故発生直後からの情報共有 4. 医療安全に関わる対話-3つの枠組み 5. 認知齟齬と俯瞰 6. 競合解消の方向性 7. コンフリクトの構造を知る 8. 感情と情報不足への対処～エンパワメントとケアリング～ 9. 対話による問題解消のプロセス 10. 怒り感情への対処と謝罪 11. 医療メディエーションの実際 12. 本日のまとめ ○研修方法 演習：ロールプレイ 演習内容「誤注射事例」				
結 果	○参加者数 52名 65% 【達成・未達成】 ○アンケート結果（回収率65%） ・理解度 100% 【達成・未達成】 ・自己課題の達成度 100% 【達成・未達成】 ○受講者の意見 何においても対話が重要であること、相手のインタレストを知ることが重要であることがわかりやすく理解しやすかった、人との対応に関するモヤモヤの糸口となった、ロールプレイやシミュレーションで理解が深まった等、実践を通して楽しく学べたことで理解に繋がった感想が多かった。受講者から否定的な意見はなかった。				
評 価・総 括	○目標達成の評価：【研修会の目標は達成した】・達成しなかった】 ・テーマ・目標・企画内容・時間配分：研修のねらいと研修内容との整合性があったと88.2%が回答し、学びが深まったことが伺える。 ・アンケート結果：関心があり受講した人が44%おり、理解度、課題の達成度もとても高かった。幅広く受講して欲しい為、対象を拡大しても良いと考える。 ○総括：研修を通して、コンフリクトは対患者のみに生じるのではなく、対人関係のあらゆる場面で生じる可能性があり、広く自身のコミュニケーションについて考える機会に繋がった。 ・講師パワーポイントのタイトル副題が「～対話と協働の文化の醸成～」だったため、次回はこの副題とする。 ・アンケート入力時間を時間内に確保し案内したが、回収率は65%であった。				
課 題	○対象者をレベルⅡまで拡大を検討する。				
担当者	医療・看護安全委員				

評価基準：

- ①参加数が募集数の70%以上
- ②研修内容の理解度（できた、ほぼできた）80%以上
- ③自己課題の達成度又は研修目標（知識技術）の習得度（できた、ほぼできた）80%以上
- ④アンケートの意見